

ニ上山だより

ニ上山に咲く花々 ③

オカトラノオ（丘虎の尾）サクラソウ科
（新分類ではヤブコウジ科）オカトラノオ属

登山道、遊歩道の日当たりのよい場所に咲いています。長い花穂が曲がって垂れ下がり、それを虎の尻尾に見立てての命名。

群生地で純白の花穂が波のように風に揺らぐさまは涼感たっぷり、汗も疲れも、そしてストレスすらも吹っ飛んでしまいます。貴方も一緒に登りませんか。



不毛の砂礫地で懸命に生きるコマクサに感動



長崎西高地学部同期生の登山旅行、今年には東北の花の山。特にお目当てはコマクサ。

7月9日朝、岩手県盛岡市をレンタカーで出発した一行は、岩手山の北側山麓に広がる焼走り（やけはしり）に。ここには国の特別天然記念物・焼走り熔岩流がある。

これは1719年（又は1732年）岩手山中腹から噴出した熔岩が幅1.5キロ、長さ4キロに亘って流れくだった跡で、まだ表土もなく、荒涼とした岩石、砂礫の斜面が周囲の森林とくっきりとしたコントラストを

見せて広がっている。そして、この上部の砂礫地に「日本一」との呼び声高いコマクサの群落があるのだ。残念ながら時間切れでその全貌を目にする事は出来なかったが、砂礫地に点々と咲くコマクサの群落を見ることが出来た。

その翌々日、秋田駒ヶ岳の横岳から南に下る稜線でコマクサの群落を見ることが出来た。ここは文字通りの大群落であった。「大焼砂」と呼ばれているこの地では稜線を走る登山道の左右の斜面をほぼコマクサだけが埋めている。私のカメラワークではその光景を写真にできなくて残念だが、黒い砂礫の斜面一面にピンクの塊がひろがる様子は圧巻であった。

登山道ですら、一步ごとに足元の砂礫が崩れるのだ。雨も風も容赦なく地表そのものを流し去り、剥ぎ飛ばしていくことだろう。その不安定な不毛の地に1メートルにも及ぶ根を食い込ませ、パセリを思わせる葉で空気中の水分を捉えて、7～8年かけて成長し、あの美しい花を咲かせるのだ。こうして他の植物たちが生育できる条件を整えていくのだ。言わば高山における緑化の先駆け＝先駆植物なのだ。

荒々しい黒い斜面に群咲く可憐な花を眺めながら、その過酷な生涯と自然界における役割とを考えると、風に揺れるコマクサに拍手を贈りたくなる。一方でコマクサを腹痛薬として大量採取し、各地で絶滅状態にしてきた人間の罪深さを思うと、コマクサに何度でも頭を下げて謝りたい。



2012年7月6日

医療事故について

医療法人健生会

理事長 稲次直樹

土庫病院

院長 山西行造

健生会各施設をご利用のみなさまへ

今回、土庫病院を受診された患者様の胃がんの診断結果の説明もれで、治療開始が1年余遅れた医療事故が発生し、患者様、ご家族様には判明した翌日に経過をすべて報告、謝罪し、誠心誠意、治療と対応を行ってまいりましたが、残念ながら7月3日土庫病院にて亡くなられました。患者様、ご家族様に心からお詫びするとともに、お悔やみ申し上げます。

また、マスコミ等の報道で、当院ご利用の患者様、友の会の皆様、市民の皆様にご迷惑とご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

事故発覚後、事実にもとづき、患者様の治療と療養への対応、再発防止の取り組みを進

めてまいりました。事故の概要と対応は以下の通りです。

2011年9月1日、当院人間ドックを受診された患者様に胃内視鏡検査を施行し進行胃がんを発見。前回検査結果を確認したところ、2010年9月9日に胃内視鏡検査などを施行しており、後日、胃がんの病理組織検査の結果が出ていましたが、2010年9月28日の外来での検査結果説明の際、胃がんの結果説明がもれたことが判明し、癌の治療開始が1年余遅れることになりました。

2011年9月2日、患者様への経過の説明後、患者様が希望された複数の医療機関へのご紹介、必要な情報提供などを行って参りました。最後は当院での化学療法と他院での治療を並行して行っておられました。

事故の原因は検査結果と結果説明の多重チェックシステムの不備によるものです。内視鏡検査の多重チェックシステムにつきましては消化器外科・消化器内科医師による内視鏡検査の全例カンファレンスの実施と指示医へのフィードバックなどの改善をすでに実行しています。さらに、検査結果の患者様への説明システム全般につきましても、全面的な検討と見直しを行っているところです。

患者様への賠償も、内払いをしながら、双方代理人をたてて賠償を検討する枠組みもでき、賠償の話し合いの途上でありましたが、「同意なく賠償を打ち切る」などの一部マスコミの報道は非常に残念に思います。

今回の事故につきまして、あらためてご遺族の皆様に哀悼の意を表明するとともに、深くお詫びし、今後とも誠心誠意の対応を行って参ります。また、安全・安心の医療の一層の推進に努力する所存です。皆様のご意見、ご協力をよろしくお願い致します。

こんな時こそ 友の会の力発揮を

健生会友の会会員のみなさん、いつも健生会・土庫病院と友の会に御協力いただきまして有難うございます。お陰さまで五月二十日の健康まつりも大成功いたしました。この場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。

さて、すでに御承知と思いますが、土庫病院に入院されていた一人の患者さんが七月三日亡くなられ、この方の診察の際、病院側に「告知ミス」があったことがマスコミで報道されています。

「告知ミス」は病院としてあってはならない「ミス」で、なぜミスをおかしたのか、今後なくすためにどうすればいいのか、病院での検討・研究がなされているところです。

私たちは、亡くなられた方に深く哀悼のまことを捧げますと共に、「医療ミス」の根絶のために、病院側のいっそうの研究・努力を促しているところです。

土庫病院は「土庫診療所」として発足以来、地域の医療機関として地域のみなさんと一緒に苦楽を共にし、歩んで参りました。「いのちに格差なし、医療に差別なし」をモットーに、個室料金（差額ベッド代）を設けず、すべての人に平等な医療をと、がんばってまいりました。

深刻な医師不足の中でも、医療スタッフ・体制の許す限り「救急患者の受け入れ」をしてきたのも、そうした理念に基づくものでしたし、東日本大震災の際に、いち早く「救援医療チーム」を現地に派遣し、その後も支援活動を続けていることも、土庫病院ならではのことで、私たちは誇りに思っています。

今回の「告知ミス」はあってはならないことで、極めて遺憾な事でありました。病院側が率直に自らのミスを認め、それ以後誠心誠意ご家族とも話し合いを続けていることを見守りたいと思います。

また、「医療ミス」をなくし、これまで以上に地域の人々の命と健康をまもる役割を発揮するよう、友の会として強く要望し、そのための協力を惜しまない積りです。

友の会会員のみなさん、これまで健生会、土庫病院の活動・発展を支えてきた「友の会」の力を、今こそ発揮する時です。貴方の御意見、御要望を友の会にお寄せ下さい。お力を貸してください。

季節の変わり目です。御健康に重々留意されてお過ごしください。

平成24年7月6日

健生会友の会会長

松尾忠